



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年09月30日 第1187号「週刊五十嵐レポート」

中国と中国人

9月26日付朝日新聞、「中国の映画市場失速」という記事。米国と肩を並べる規模までに急成長した中国の映画市場が失速している。夏休みシーズンの興行収入は前年比44%の大幅減。ヒット作不足に加え、経済の不調で消費者の財布のひもが固くなっていることも要因。

同日付日経新聞、「値崩れ、富裕層の投資細る」という記事。中国で「バブル崩壊」が話題。不動産の話ではない。1瓶数万円の白酒、貴州茅台(マオタイ)酒のこと。中国を代表する高級酒だが、半年で2割を超す急速な値下がりに見舞われている。転売益を得ようとする投資需要の減退。かつては値上りを見込んで2, 3本買って保管。景気に対する悲観論が強まる。

9月29日付日経新聞、「韓国輸出企業、対中競争に苦戦」という記事。中国国内の過剰生産能力と内需低迷の影響が世界市場に波及。鉄鋼、石油化学製品、繊維、化粧品等を扱う韓国の輸出企業が中国の競合企業から大量の輸出品との競争で苦戦、市場シェアを奪われている。

9月28日付朝日新聞、「自由な本作り、日本でなら」という記事。日本国内で中国人による中国人向けの書店や出版会社が次々と開業。「将来、この子たちを熾烈な大学入試競争にさらしたくない」。より良い教育環境を求め、日本へ一家で移住する中国人は多い。日本に住む中国人は23年末時点82万人(台湾除く)。

書籍「日本のなかの中国」(中島恵著)の中に、「多くの分野で中国から日本へやって来た人が活躍している理由は、中国国内の競争があまりにも厳しすぎるから。たとえば、卓球で中国代表に選ばれるのは至難の技。でも日本や海外に行けば、同じ実力でも第一線で活躍できるチャンスはある。大学受験も同じ。中国で真ん中でも海外に行けば上位に行ける。中国人にとって海外に行くことは、自分の人生を変える突破口。(勝ちやすきに勝つ)

私は、余暇に日本語を外国人に教えている(代わりに中国語を学ぶ)。特に中国人はSNSを活用して中国人経済圏を構築している。国家はかわからないが、人はたくましい。勝てるフィールドを独自で作り上げる。見習うところはある。

ちょっと
気になる出来事

9月23日付朝日新聞「米の輸出米、国内転用はNG」という記事。

米の輸出が好調。1~7月の輸出量は過去最高を記録。農林水産省によると、2014年4,516トンだった米の輸出量は、2023年3万7,186トンと9年間で約8倍に。今年も1~7月2万4,469トンで前年同期比23%増と過去最高。

輸出量の多い地域は香港、米国、シンガポール。輸出を後押ししているのは和食ブーム。海外の日本食レストランは23年約18万7,000店、2年で2割増。コロナが収まり外食需要が増え、円安もあり追い風になっている。大手回転ずし等の外食企業が海外展開が増え、輸出米の需要は高い。

輸出用の米は作付け段階で補助金と紐づいているため、輸出以外の用途に転用できない。10アール当たり4万円が交付。国内で販売となると補助金を返還しなければならない。国内の主食用米の生産量は661万トン。輸出用米は約5万トンとすると、1%も満たない。今年の夏、店頭に米がなくなった。この輸出米を仮に転用しても解消できなかった。

今後は補助金がなくなることを想定して輸出米を生産、販売するには、生産者が独自に海外販路を築いていく必要がある。弱者は接近戦、直接戦。



一口メモ
知識

仁

「仁(じん)」とは大きな愛、思いやりである。

人間は一個人だけでは生きられず、ともに助け合って生きている。

家庭においては、家族への思いやりと養い、仕事においては、社会貢献や社会的責任も「仁」に含まれる。

社会活動において、まず大切なのは、人を思いやり、社会貢献に励み、社会の責任を担うことである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

